しんあい

季刊

2021年（令和3年）3月20日発行　第117号　◆編集と発行　しんあい編集部

社会福祉法人
多摩同胞会
〒183-0042 東京都府中市武蔵台1-10
TEL042−367−8801

多摩同胞会のホームページでは、ブログを毎日更新しています。
https://www.tama-dhk.or.jp/
をぜひご覧下さい！

勤続35年、25年の職員が代表して理事長、施設長と記念撮影しました。（泉苑）

泉苑
・特別養護老人ホーム信愛泉苑
・高齢者在宅サービスセンター 泉苑ケアセンター
・府中市地域包括支援センター泉苑
緑苑
・養護老人ホーム信愛寮
・特別養護老人ホーム信愛緑苑
・府中市地域包括支援センター緑苑
あさひ苑
・府中市立特別養護老人ホームあさひ苑
・府中市立あさひ苑高齢者在宅サービスセンター
・府中市地域包括支援センターあさひ苑
・府中市高齢者住宅うらら多磨
神田事業所
・特別養護老人ホームかんだ連雀
・かんだ連雀高齢者在宅サービスセンター
・高齢者あんしんセンター神田
・千代田区立岩本町ほほえみプラザ
・千代田区立かがやきプラザ相談センター
児童福祉
・母子生活支援施設網代ホームきずな
・母子生活支援施設白鳥寮
・子ども家庭支援センターしらとり
・府中市子ども家庭支援センターたっち

◆ 社会福祉法人を考える8 ～母子生活支援施設とは～
◆ コロナで変わったこと
◆ 2020年度永年勤続表彰
◆ 施設だより「小さい春み～つけた」

社会福祉法人を考える　8

～母子生活支援とは～　(3) 母子生活支援施設の事業

３回にわたって、多摩同胞会の原点として、1946年(昭和21年)から継続してきた母子寮、母子生活支援施設について、歩みや今日の役割などについて考える、第３回目です。

業務執行理事(母子担当)　小笠原　祐 次

今回は、現在母子生活支援施設の事業、「網代ホームきずな」「白鳥寮」が具体的にどのような事業、支援を行っているのか、それぞれの部署の担当者が説明します。

1．母子生活支援施設の暮らしとサービス　―「網代ホームきずな」「白鳥寮」―

入所世帯の生活 ～日々の生活～

白鳥寮や網代ホームきずなの入所世帯の生活スタイルは、昭和60年代から現在に至るまで基本的な生活は変わっていません。さまざまな理由で入所されますが、母親は、生活課題により個人差はありますが、仕事をしながら子育てし、自立を目指します。子どもたちの日常は、未就学児の場合は施設内保育又は地域の保育園、小学生以上は下校後に施設内学童保育や地域の学童保育で母親が帰宅するまで過ごします。母親の帰宅後は、それぞれのお部屋で夕食、お風呂等をすませ就寝という普通のご家庭と同じような日々の生活を送ります。職員は、それぞれの世帯の課題（入所目的等）の解決に向けての相談支援や日常の生活支援と子育ての支援、母親の就労支援を行い、退所（母子の自立）を目指します。現在は、退所後もアフターケアとして相談、就労や通院の同行支援等も行っています。

大きくかわった住環境（施設整備）

白鳥寮は、網代母子寮の姉妹寮として開設しました。開所当時（昭和29年頃）は、６畳の居室に１畳当たり１人の割りで複数世帯が雑居していました（法人年史より）。　昭和42年の全母協調査では、建物総数の91％が木造で、73％が共同炊事場になっており、旧軍用建物、会社工員寮等を利用して設置、戦後物資不足時代に新設された木造建物が多く近代生活に適応しないと記述されています。白鳥寮は平成７年度の改築前の居室は洗濯機を置く場所やトイレや浴室もありませんでしたが、改築後は居室内に洗濯場、トイレと浴室を設置し、居室の広さも4.5畳１間から６畳と4.5畳２間（12.95㎡～20.16㎡から26.96㎡～38.91㎡）と大幅に改善されました。昨年度改築工事が終了した網代ホームきずなは、多子世帯の利用者も多いため居室は30.35㎡～53.20㎡となり、さらに改善されました。白鳥寮の改築前後生活していた子どもから、いままで家に呼べなかった友達も呼べるようになったと嬉しそうに話していたことが印象的でした。

改築後のサービス

居室も大幅に改善されましたが、それぞれ保育室や学童室も改善されました。さらに、白鳥寮は府中市の委託を受け子ども家庭支援センターしらとりを併設し、ショートステイ、トワイライトスティ、地域交流室、相談事業等さまざまなサービスを提供しています。きずなも災害時の緊急一時避難所の協力等、地域の皆さまに貢献できるようになりました。

（白鳥寮 施設長 近藤 政晴）

2．家族支援の実践例 ～母子生活支援施設では、このような家族支援を行っています～

夫の暴力等から立ち直り、自立目前の世帯

家族は、母親40歳・長男17歳・次男16歳・三男６歳で４年前に母子生活支援施設に入所しました。入所前は、夫の暴力・父から子どもへの虐待・不登校等に悩み、家族が機能不全に陥っている状態でした。

入所当時、三男は３歳でしたが、父からの虐待を思い出しては、夜泣きが続き母親を叩く、蹴る等の行為がありました。長男、次男も前の学校から不登校ぎみでゲーム依存があり、昼と夜が逆転している生活で周囲の大人を誰も信頼せず心を開こうとはしてくれませんでした。母親は、この子ども達を育てながら自らも不眠、めまい、男性恐怖症、フラッシュバックという心理現象に悩まされていました。（※フラッシュバックとは、強いトラウマ体験を受けた場合に、後になってその記憶が突然かつ非常に鮮明に思い出され苦しくなる症状のうちの１つである。）

３人の子どもの心身の状態は重く、長男が施設内で暴れ警察介入。その後児童精神科に入院し重度ストレス反応の治療を受けました。次男も施設内で暴れ、施設職員に暴力行為があり警察介入。長男と同じ児童精神科に入院となりました。病名はADHD（注意欠陥・多動性障害）と重度ストレス障害。時期をずらして三男も児童相談所に相談したところ、小児精神科医の診察結果により、児童養護施設に入所となってしまいました。

このようにそれぞれの心の傷は、大変大きなものがあり、母自身も感情が表にでず苦しみました。心理カウンセリングやトラウマ治療を受ける一方、担当職員や心理士がつらい話を共感しながら聴き、代わりに泣くという日々が続いたりしました。このように職員が支援者の役割を最後まで諦めず利用者に寄り添って支援を続けた結果、またさまざまな関係機関の支援者が私たちの仕事を理解し、協力し続けてくれたおかげで、今では離婚も成立し子ども達の親権も取得することができました。母親は、自信を取り戻し仕事に通いながら都営住宅へ退所する準備をしています。長男、次男も高校に通学中でそれぞれ将来の夢が持てるようになりました。三男も元気に小学校へ登校しています。

母子生活支援施設は、母親と子どもが唯一一緒に生活できる児童福祉施設です。生活の基盤（経済的な）が不安定な上に心身ともに疲れている母と子が安心した環境で暮らしながら、心の傷つきで失われた社会性や困ったときに誰かに頼ってもいいと思える力を取り戻していきます。私たち職員の果たすべき役割は大変大きく、利用される方々には、「来て良かった」と感じてもらえる支援をこれからも継続していこうと思います。

（網代ホームきずな　次長　岩田 昭子）

3．母子生活支援施設が実施している在宅サービス

白鳥寮では平成７年度に子ども家庭支援センターしらとりを併設し、保育所・学童クラブ終了後から午後10時まで児童を預かるトワイライトステイ、保護者の出産などの際７日間以内で児童を預かるショートステイなど、地域の子育て世帯向けの事業を実施してきました。それを端緒として、平成13年度にファミリーサポート事業、平成16年度には府中市子ども家庭支援センターたっちの事業運営（一部）を法人として受託し、総合相談、ひろば、一時預かりなどの事業に取り組んでいます。中でもたっちのひろばは府中市をはじめ近隣市の皆様にご利用いただいています。１日平均180組の利用者のみなさん（主に０～２歳児の子育て世帯）に、親子が安心して安全に過ごせる場、他の世帯と交流できる場として来場されます。（現在は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため規模を縮小しています。）

しらとりでの在宅サービス開始から25年、子育て世帯を取り巻く環境は刻々と変化し、それとともにサービス利用者の傾向も変化しています。要支援世帯との関わりも少なからずあり、府中市関係各課と連携を密にして支援にあたっています。

府中市内でそれぞれ高齢者と子育て世帯の支援を担う、法人内の“地域包括支援センター”と“子ども家庭支援センター”では、お互いの事業内容の理解を深め、多様な課題を抱える世帯への支援を円滑に進めることを目的に『家族相談連絡会』を実施しています。今年度はコロナ禍で実施を控えましたが、関係機関を含めた『家族相談情報交換会』では民生委員さんを中心に活発な意見交換がされています。各機関が知り合い、“顔の見える関係”を築くことにより、支援者の安心感を高め、生活困難世帯を支える地域の力が向上することを目指しています。

（子ども家庭支援センターしらとり・たっち統括センター長　畑山恭子）

4．厚生労働省「社会的養育の指針」を受けて

2017年、厚生労働省は「新しい社会的養育ビジョン」を公表しました。この報告書では、子どもが権利の主体であり家庭養育優先を原則とすること等を念頭に、母子生活支援施設に関して「地域に開かれた施設として、専門的ケアを提供できるなど多様なニーズに対応できる機関となることが求められる。」と提言されています。

「網代ホームきずな」、「白鳥寮・子ども家庭支援センターしらとり」は共に、ＤＶからの保護に取り組みながらも、子ども家庭支援センターの事業や地域公益活動などを通して施設開放や施設の多機能化にも積極的に取り組んできました。先般、東京都は同ビジョンを踏まえた「ひとり親家庭自立支援計画」の中で母子生活支援施設の位置づけについて一章を割き、「安全性を重視した閉鎖施設」と「地域の母子を支援する開かれた施設」の両方の役割を有する施設であると言及した上で、「両方の役割を分離した施設のあり方など、国の検討を注視する」という姿勢を表明しています。

多摩同胞会は今後も、これまでの経験を活かし両方の役割をきり離すことはせずに、実践を通じて利用者への支援の充実をより一層図っていきたい、そのように考えています。

（網代ホームきずな　施設長　片岡 高博）

コロナで変わったこと 変えたこと

疫病退散

2020年２月に国内で陽性者が出て以来、法人では感染防止のための対応に職員が一丸となって取り組んできました。

高齢者や子育て家庭の生活を支援している各施設では、ご利用者やご家族にもご理解とご協力をお願いして、我慢していただいています。そんな新たな生活様式の中での楽しみ方や、少しでも季節を感じていただくために職員が知恵をしぼって工夫しています。

しらとり

～個別で～

支援員（社会福祉士）　金本　百合香

しらとりひろばでは感染症対策として、オープンルーム等の大人数でのイベントは中止とし、代わりにご希望の方に個別で製作キットをお渡しして製作をしていただいています。節分の鬼のツノや、お雛様のつるし飾りなど、季節の行事にちなんだものを用意しています。

今までのように大人数で集まることはなかなか難しくなってしまい、自粛の続く日々ですが、しらとりひろばで親子で遊びや製作をして楽しんでいただければ嬉しいです。

きずな

～お弁当の日～

母子支援員（社会福祉士）　髙橋　風子

１回目の緊急事態宣言中は学校が休校となりお母さんたちは１日３食子ども達の分もご飯を作る負担が増えました。そうした中で行事の代わりにお母さん方の負担が少しでも減るようにと、きずなでは月１回、お弁当の日を設けました。１つのお店から複数メニューをピックアップし、ご利用者に好きなメニューを選んでもらっているので、選ぶ楽しみもあり好評です。１月はお寿司（生ものが苦手な方は別メニュー）でしたので、皆さんとても嬉しそうでした。

岩本町ほほえみプラザ

～ZOOM～

介護員（介護福祉士）　松本　幸二郎

認知症対応型デイサービスとグループホームでは月に２回程合同での活動を実施していますが、新型コロナが発生してからは直接の交流が出来ない状態になりました。その為ZOOMを使用して、職員が毎回考えたゲーム（連想ゲームや伝言ゲーム等）を実施しています。テレビの大きな画面に映し出すことで、顔も見易くなりしっかりと交流出来ています。ZOOMも良いのですが、早く直接会って交流をしたいものです。

たっち

～予約制～

地域支援ワーカー（保育士）　石田　睦美

昨年４ヶ月の閉館を経て、再開したひろばの一番の変化が事前予約制になったことです。感染防止対策として、開館時間は午前と午後の２部制、利用は週１回となっていますが、次回来館するのを楽しみに「来週はいつにする？」「うちはいつでもいいよ！」と相談するお母さん方の姿も。

ひろばの様子は大きく変化しましたが、親子共にたっちを楽しみにして下さる気持ちは変わらない事が何より嬉しいです。

あさひ苑

～新しいイベント～

通所介護（介護福祉士）　簗瀬　公亮

毎年盛大に行われる恒例の年末餅つき大会。感染症予防で今年度は中止となりました。しかし、コロナ禍でも皆さんに季節感を楽しんでいただきたいと、年末にいつもより大規模なクリスマスイベントを行いました。大きな手作りケーキを食事係に作ってもらい、玄関、フロアをイルミネーションで飾り付け、天井に届きそうなクリスマスツリーも活動として皆さんと一緒に作りました。当日は職員のクリスマス仮装や一芸。意外な職員の姿に皆さんはマスク越しに大笑い。年が明けても「忘れられない」と、コロナに負けない大盛り上がりで年を越すことができました。

泉　苑

～記録～

相談員（社会福祉士）　近藤　雅代

泉苑デイサービスでの昼食時間は、日々ご利用者のお食事風景をタブレット端末のカメラ機能を使って画像に記録しています。万が一、ご利用者の中に新型コロナウイルス感染者が確認された場合、いつ・どなたが・どの席でお食事されていたかが後追いできるようにすることが目的です。食事テーブルにアクリル板の設置、対面でのお食事は避けていただく対応策に加えて、万が一の事態にも備えた対策を実施しています。

緑　苑

～自粛～

養護支援員　佐藤　晶彦

養護老人ホームのご利用者は、毎日のように近隣のスーパーやコンビニまで買い物に行ったり、時には公共交通機関を利用し都内まで出かけられる方も多くおりました。

しかし、このコロナ禍で緊急事態宣言が発令された後は、自由に外出も出来なくなり、申し訳ないのですが、外出票を記入のうえ週に２回までと決めさせて頂きました。

職員も本意ではないのですが、予防のためですので皆様にご協力を頂いています。

かんだ連雀

～フロアごとに～

ホーム担当（介護福祉士）　伊藤　裕太

世の中では色々なイベント等が中止や延期になっています。連雀では、規模や内容を工夫し、イベントを企画ました。大きな催しとしては秋の「敬老会」があります。毎年、１階のホールにご利用者が集まり、職員やボランティアが余興を披露しましたが、今回は、フロアごと（３階・４階・５階）に開催しました。担当の職員は各階で同じことをしなければならないので、体力的にきつかったのですが、お一人お一人の喜ばれる様子を近くで感じる事ができ、とても盛り上がる会となりました。

施設だより

「小さな春」み～つけた♪

今年のお花見も以前のようにはできませんが、各施設では「小さな春」をみつけて、季節のうつろいを楽しんでいます。

しらとり

春を告げるお客様

1月の末日、しらとりでは早々と梅の花が咲き、ふわりと良い香りがします。先日子どもたちの歓声に交じってかわいい声が聞こえると思ったら、きれいな緑色のメジロが二羽遊びに来ていました。近くまで寄っても蜜を吸うのに夢中なのか動かず、春らしい良い写真が撮れました。

3月に近づくとしらとりでは、来る春に向け進級に伴う諸々の準備が始まります。保育園の申し込みをしている子たちには来春からの入園可否のお知らせが届き、入園できる家庭は保育園に必要なものを買い揃えたり、健診に行ったりします。小学校等に上がる子たちは、ランドセル等の入学準備品を買ったり、就学のお知らせが届き様々な手続きをしたりします。新しい環境に不安と期待があるのはお母さんたちも同じです。職員も書類や準備するものを一緒に確認しつつ、春の入園入学、進級に向けて一緒に頑張ります。

施設からは、進級のお祝いにプレゼントを贈ります。保育士も学童の職員も、それぞれの子どもが喜ぶようにと沢山悩みます。流行っているものか、いやハマっているものか、好きなものは何か、探しに行くのも大変ですが、喜ぶ顔を想像すると職員も心が温かくなります。

どうか皆さまこのまま健やかに穏やかな春を迎えられますように。

支援員（社会福祉士）　成瀬　明子

あさひ苑

春の思い出

♪さいた　さいた　チューリップの花が
　ならんだ　ならんだ　あか　しろ　きいろ
　どの花みても　きれいだな♪

私はあさひ苑近くの多磨駅前に咲いていたチューリップを思い出します。春になると色とりどりのチューリップが通行人を楽しませていました。「今年も春が来たんだなぁ。」と感じます。駅前の花壇は、Aさんが個人で植えて世話をしていましたが、最近では市の管理になっています。

長年続けていたことを辞める寂しさもあってか、Aさんは自宅近くの道端でチューリップの世話を始めました。紅葉の時期にチューリップの球根を植え終えます。私もAさんも春が来るのを待ち遠しく思っていました。しかしAさんの体調が優れず、花の世話が出来なくなってしまいました。もしかしたら枯れてしまうかもしれないと心配でしたが、綺麗なチューリップがたくさん咲きました。そして、翌年の春にも咲いたのです。

童謡チューリップの作者は東京在住のご年配の方で、昭和5年の日本が不安な時代に「何事にも良い所があるもの。特に弱いものには目を配りたい。」という思いを込めて作られたそうです。

あたたかな風をうけながら、ゆっくり自転車を走らせてみたいと思います。

包括支援センター（看護師）　後藤　恵子

2020年度 永年勤続表彰式

～みなさん、お疲れさまでした。これからも頑張りましょう～

多摩同胞会では、毎年法人創立月の 12 月に職員の永年勤続表彰式を行います。表彰は、勤続5年、10 年、15 年、20 年・・・と5年きざみとしています。（5年勤続者には感謝状）

2020 年度の表彰者は、5年勤続 13 名、10 年8名、15 年 17 名、20 年4名、25 年4名、35 年が1名の計 47 名です。法人の正職員は再雇用職員を含めて 309 名ですから、その 15%が対象となりました。ちなみに、法人では 10 年以上の勤続が 161 名（52.2%）、5年以上の勤続を合わせると 218 名（70.6%）となります。

例年は、役職員全体会の場で表彰して、乾杯、会食とみんなでお祝いしていますが、今年は 12 月 15 日に ZOOM によるオンラインで各施設を結んでの表彰式となりました。理事長から感謝と労いの言葉が贈られて、各施設で設営した会場では、施設長から賞状と記念品が一人ひとりに手渡されました。最後に 35 年表彰の職員が、代表してお礼のあいさつをしました。

この場面は、毎年のことではありますが、とっても感動します。

各会場で記念撮影をして閉会となりました。

表彰者からは、『ZOOM を使った画期的な手法の開催だったけれど、やっぱり顔を合わせたいなあ』と感想をいただきました。本当に、2021 年度はみんなで集まれるといいですね。

（事務局　上野廣美）

泉苑会場から理事長が表彰者を労いました。

一人一人に賞状と記念品をお渡ししました。（泉苑）

はなれていても心はひとつです。（あさひ苑）

紅白幕で会場を盛り上げます。（岩本町ほほえみプラザ）

職員代表のあいさつ
後ろで故中城理事長も見守って下さいました。（泉苑）

各会場の様子をモニターで確認しながら進行しました。

各会場では、理事長に代わって施設長から賞状を授与しました。（あさひ苑）

各会場もソーシャルディスタンスで感染予防しました。（岩本町ほほえみプラザ）

たっち

あさひ苑

緑　苑

泉　苑・しらとり

きずな

岩本町ほほえみプラザ

かがやきプラザ相談センター

かんだ連雀

きずな　初めての試み

きずなでは子どもたちが現在いくつかの作物を栽培しています。これまではじゃがいもやさつまいもを中心に収穫した作物をおやつや行事で調理し、利用者に提供していました。

きずなに入所した子どもたちは最初野菜が苦手な子たちが多いのですが、おやつや行事を通して次第に食べられるようになります。今年は初めての試みとして、そんな子どもたちから声が出ていたほうれん草を栽培しています。ほうれん草は地域の気候等によって栽培時期や収穫時期が異なります。それらに合わせて多くの品種改良されたほうれん草が栽培されており、きずなのものは春に収穫できるものとなります。

新年度が始まった頃には、学童の先輩のお兄ちゃん、お姉ちゃんたちが新入生に立派なほうれん草を育てたことを誇らしげに自慢し、皆でおいしく食べている姿が目に浮かびます。

少年指導員（社会福祉士）　山城　克之

たっち　進級の春

春、それは進級の季節です。交流ひろばの中央にある、たっちのシンボル「大きな木」は、この春で16年生になります。

年間延べ約12万人以上の方が来館される、たっち。2005年3月の創設以来、大きな木は、どれだけ多くのお子さんの成長を見守ってきたことでしょう。ご利用者の皆さんが安全に安心して過ごしていただけるよう、試行錯誤してきた職員の努力も知っています。特に昨年は感染症対策に伴い交流ひろばの様子が変わり、きっと心を痛めていることでしょう。

子ども達が大好きな、大きな木。これからも、たっちの頼もしい先輩として、新たな出会いを楽しみにたくさんのご利用者を迎えてくれるでしょう。大きな木と共に、職員もまたお子さんの元気な姿でひろばが賑わうよう願っています。

リフレッシュ保育（保育士）
齋藤　絵里

緑苑　いよいよ新社会人

「春の思い出ね。そうね。うちの娘の子がね、大学を卒業して社会人になった時は思い出に残っているわ。娘もこれで子育ても一段落ねって言ってね。でも孫の成長って本当に早く感じるのよね。自分の子のときは、毎日育てるのに精いっぱいで、時には時間が進むのも遅く感じたんだけど。ほら、孫は育ての責任はないし、あまりいっしょに生活していないから、たまに会うと急に背も伸びたり、しっかりしてきたなって驚くことも多くてね。」とご利用者のMさんです。懐かしいアルバムを眺めてはお話して下さいました。

「何かプレゼントをと考えたけど、あまりお金も無かったしね。安くても心のこもったものをと、いろいろ考えて送ったものよね」と話すMさんの表情は穏やかで、今でもとても嬉しそうに話されます。Mさんの気持ちは絶対にお孫さんにも通じたでしょう。

生活相談員（介護福祉士）　平岡　貴弘

泉苑　変わらない景色

新型コロナウイルスの影響で様々なイベントが中止され早1年が経ちました。収束は、まだまだ見通しが立たず、ご利用者との散歩もままならないままです。

それでも、外の景色はゆっくりと移ろいでいきます。泉苑には毎年みなさんの目を楽しませてくれる桜の木があります。

たまには外の空気をとベランダに出ると目に入る大きな木。

芽が出て綺麗な花が咲くことを想像されたKさんは、「綺麗だろうね」とにっこり笑顔。

「お花見は出来るかな?」

「みんなで近くで見たいね」とまだ咲いていない春のピンク色の花に思いを馳せながら、いつもの日常が戻ることを願う、ある晴れた穏やかな日でした。

特養ホーム（介護福祉士）　石川　愛

岩本町　春の恵み

いつまでも寒い日が続いていると思っているうちに、確実に花の蕾もふくらみ春の準備が進んでいます。

今年は、皆さんで食事を囲んでお話しをということができなくなりましたので、松花堂弁当をご用意し楽しんでいただきました。巻き寿司は、菜の花・抹茶・チューリップをイメージした色合いで、デザートはいちご・メロン・ババロアの3種類を職員がワゴンで運び、ご利用者に選んでいただきました。菜の花の花言葉には小さな幸せ、チューリップの花言葉には真実の愛という意味があるそうです。毎日の生活の中で、愛のあるお食事で小さな幸せを感じていただけたらと願いを込めました。

お食事は栄養面や味はもちろんですが、旬の食べ物で季節を感じて、盛り付けをお楽しみ下さい。

食事係（栄養士）　高橋　香織

連雀　ひなまつりで気持ちも暖かく

日中は日向にいるとポカポカと暖かく感じることが多くなり、段々と春が近づいてきました。

3月3日はひな祭り、例年通り今年もひな人形を飾りました。かんだ連雀の雛飾りは7段飾りです。寄贈して頂いたもので歴史を感じる年代物です。コロナ禍でも、桃の節句をご利用者の皆さんが喜んでいただける様にと飾りました。

ご利用者はいつもと違う華やかな雰囲気をとても喜ばれ、一人のご利用者が「灯りをつけましょぼんぼりに～」と歌い出すと、その場にいたみなさんが歌っていました。「いい思い出になったわ」と言われながら、じっくりと眺めていらっしゃる方も。とても暖かで楽しい時間を過ごしました。

特養ホーム介護員（介護福祉士）　保坂　美加

ニュースミニミニ Ⅰ

二人のサンタさん

冬の訪れとともにコロナ感染拡大の深刻化が懸念された昨年末、網代ホームきずなには思いがけないお二人のサンタさんから、寒気もウイルスも吹き飛ばしてくれるような、身も心も温まるステキな贈り物が届けられました。

送り主はお二人とも、30年以上前のきずな（当時は「網代母子寮」でした）でそれぞれ子ども時代を過ごされました。お一人は中学生の男の子、もうお一人はまだ学校に上がる前の女の子だったそうです。そんなお二人が偶然にも、気持ちの沈みがちないつもと違った雰囲気の年の瀬のタイミングに、楽しい子ども時代を過ごしたふるさとであるきずなの後輩たちへと、お一人はご寄付を、もうお一人は各ご家庭へとプリペイドカードを贈ってくださいました。

ご本人のご意向もありお名前などは差し控えますが、この場を借りて改めて感謝の気持ちを伝えさせていただきたいと思います。ありがとうございました。

（きずな施設長　片岡高博）

ニュースミニミニ Ⅱ

積極的に情報発信

多摩同胞会ではウェブサイト・ブログに加えて、フェイスブックページとインスタグラムでも積極的に情報を発信しています。岩本町ほほえみプラザでもプラザを知っていただこうと、施設内の様子や地域の情報など様々な情報を発信しています。

この度、（株）ケアコネクトジャパン主催「第3回介護ICTフォトコンテスト」のフォト部門で準グランプリを受賞しました！

コロナ禍でさまざまな制約のある中でのオンライン面の一コマを投稿したものです。

岩本町ほほえみプラザ、そして多摩同胞会を知っていただこうとスタートしたインスタグラムが多くの方に見ていただき、さらに賞品のi-padまでいただき、続けていてよかったな、と感謝しています

（岩本町ほほえみプラザ　センター長　髙橋　誠）

ボランティアの御協力ありがとうございます

（敬称を省略させていただきます）

新型コロナウィルス感染拡大防止のため2020年2月よりボランティア活動のほとんどを中止いただいています。

大原捷子　川上詩乃　北村よしこ　近藤文子　塩澤佳津子　鈴木好子　髙倉祥子　新堀君枝　星原通子　松沢圭子　村井福子　明治安田損害保険㈱の皆さま

（2020年12月～2021年２月）

御寄贈・御寄付ありがとうございます

（掲載を可とされた方のみのお名前です。
敬称を省略させていただきます）

アメリカンスクール・インジャパン　飯塚喬子　大沢良三　岡田敏子　株式会社協和協和ふわりぃ基金　黒田志津子　㈱三晃　潮先千鹿子　浄土宗八王子組青年会　星槎学園高等部横浜ポートサイド校　殿塚みどり　日本出版販売株式会社　ひつじの会　光江弘恵　株式会社リターンハート　ロクシタンジャポン株式会社

（2020年12月～2021年２月）

編集後記

～小さい春見つけた～

「新学期用品のお知らせ」学校・保育園からこのお知らせが届くと、子供の成長と共に春を感じます。

（あさひ苑　田中愛）

子供の希望で何年かぶりにチューリップの球根を植えました。少しずつ芽が出てくる様子に春が近づいているのを感じます。

（岩本　松本幸二郎）

子どもの幼稚園のひな祭り会の発表が近づくにつれ、春が近づいているのを感じます。

（かんだ連雀　伊藤裕太）

外に出る時には欠かせなかったマフラーと手袋が要らなくなると、春が来たなあと感じます。

（事務局　井坪香織）

緑道を彩る菜の花や膨らむ桜のつぼみ。小さな小さなウイルスに振り回される人間社会を他所に、自然は淡々と季節を巡らせていることを感じます。

（事務局　青木志乃）

マトリョーシカのひな人形を手作りしたので、今年は久しぶりに桃の節句をお祝いしました。コロナ禍だからこそ季節の移り変わりを大切にしたいです。

（編集長　上野廣美）

鰆、たけのこ、イチゴにアスパラガス。スーパーに季節の旬な食材が並び始めると、春の訪れを感じます。

（たっち　齋藤絵里）

鼻がムズムズ、目がかゆい、くしゃみが止まらない～！今年もこの季節がやってきたか！と春を感じます。

（しらとり　吉田智咲）

自転車通勤中に土筆やタンポポを見かけると春がやってきたなあと実感します。

（きずな　髙橋風子）

緑苑の園庭に河津桜の木が1本あります。既に数は少ないですが健気に開花したものもあって。頑張っているなと感じます。

（緑苑　平岡貴弘）

日の出時間が早くなり日の入り時間が遅くなった時に春を感じ、今年も頑張ろうと自分に言い聞かせています

（泉苑　南佳代）

朝起きた時、寒くて寒くて布団から抜け出せなかった日々が終わろうとすると、気持ちのいい陽気の春が来たんだなと感じます。

（泉苑　石川愛）

暖かい日が増え、わが子も半袖で思いっきり走り回っています。春が来たなと感じます。

（あさひ　櫻井拓磨）

介護に関するご相談は無料ダイヤルで！

● 泉苑　老後支援24時間
0120－6540－24

● あさひ苑　福祉にっこり24時間
0120－2942－24

法人ウェブサイトはこちら　Facebook更新中　採用情報サイトはこちら

リサイクル適性Ⓐ
この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。
VEGETABLE OIL INK